

数の処理かイメージ化か

$2/3$ mは、1mを3等分した2つ分です。との説明の後に、

$3/5$ mは、1mを□等分した□分です。の□の答えをかくとき、

先生が、

「3 をここにかいていて、2 をここにかいているから、それと同じようにしたらいい。」「3 の代わりに何をいれたらいいの?」というような指導をしていた。

それで子どもは、答えをかくことができた。

はたして、その子どもは、本当にわかったのだろうか?

$3/5$ mを頭の中に「1mのテープを5等分して、その3つ分」をイメージさせて考えさせることが、大切ではないだろうか。



子どもたちに数の処理の仕方のみを教えてそれによしとしている場面はないだろうか。特に低学年で、おはじき操作をあまりしないで、すぐに数字の操作を指導していないだろうか。

その結果

- $1 + 2 = 3$ ができて、 $2 + 1 = 3$ ができない子どもが出てくる。

また、

- 分数の分母と分子を逆にかく子どもが出てくる。
- 小数の加減計算で数を右にそろえる子どもが出てくる。
- 小数のかけ算の筆算で、小数点をそろえる子どもが出てくる。

技能のみの指導になり、それを支えている数学的な考え方が、とんでしまっている。しっかりと、具体的場面を設定して、映像的イメージをつくり、それを基に問題を解決していく子供を育てる必要がある。特に算数の苦手な子供に対しては必要であろう。